

エコっこスクール2012 「秋吉台 探検隊」

- ★日 時 平成24年8月2日(木) 9:00~16:40
★場 所 山口県セミナーパーク、秋吉台エコ・ミュージアム
秋吉台長者ヶ森周辺、大正洞及びその周辺
★参加者 37人(小学4~6年生)

1. スケジュール

- 9:00~ 9:20 開講式(セミナーパーク)
10:15~11:15 秋吉台長者ヶ森周辺 草原散策(植物観察等)
11:30~12:15 秋吉台エコ・ミュージアム 学習「秋吉台のなりたち」
「秋吉台の植物や動物」、施設展示見学等
12:15~13:00 昼食、休憩
13:00~15:30 大正洞及びその周辺 グループ活動「秋吉台いきものみつけ」
大正洞入口付近の自然観察・大正洞探検
16:25~16:40 アンケート記入、閉講式、解散(セミナーパーク)

2. 講師

秋吉台エコ・ミュージアム 自然解説指導員 田原 義寛氏

3. 活動内容

【開講式】

セミナーパークのセミナー室1に集合し、挨拶と講座内容、注意事項の説明をした後、学生ボランティア4名と参加者の全員が前に出て自己紹介をしました。

【秋吉台長者ヶ森周辺 草原散策】

長者ヶ森駐車場で講師の田原氏と合流し、長者ヶ森へ向かいました。この日は台風接近の影響で風があり、真夏の草原でありながら活動しやすかったです。

長者ヶ森に向かう途中で見られた、カワラナデシコ、ナガコガネグモ、オニユリ、クズの説明とともに、草原を保つ3大技術(草刈り、放牧、山焼き)とその必要性(日光が当たるようになる、木を焼き払って大きな木を生えないようにする、縦穴を発見し柵で囲む)の話がありました。草を刈って畑に撒き、地域の資源として利用することで、秋吉台の草原を人々が保ってきたことを教わりました。

長者ヶ森には、樹齢120~150年のカゴノキがあり、剥がれ落ちた樹皮がジグソーパズルになると聞き、数人が落ちている樹皮を拾って表面にあてましたが、さすがに当てられませんでした。



<草原を保つ技術について>



<長者ヶ森のカゴノキ>

ほかにタブノキやヤブツバキなどの常緑樹が茂っており、草原は保つことができなくなると森になってしまうことや、人々が草原の草を刈って利用することが少なくなったことで、草原の面積が減っているとのことでした。

【学習「秋吉台のなりたち」「秋吉台の植物や動物」】

秋吉台エコ・ミュージアムの施設展示物を見学しながら田原氏に説明いただきました。

「秋吉台のなりたち」では、ノッチやスカラップなどの模型を子ども達に直接触れてもらいました。1度付いた汚れはなかなか取れないこと、もし折れるなど破損してしまったら復活できないことから、実際の洞窟では実物に触らないようにと注意がありました。

「秋吉台の植物や動物」では、洞窟を出入りするコウモリのほかに、洞窟内で見られる生物は太陽光が届かない洞窟の環境に適応しており、体が小さく、手足が多く、体色が白または透明の生物が多く、目が退化しているものなど、展示された写真や標本を見ながら説明を聞きました。

次に、体感シアターで「秋吉台の四季」の映像を見ました。各季節の動植物や風景とともに、ドリーネ耕作やポリエ（平野）稲作など秋吉台を利用してきた地域の人々の営みも併せて紹介されており、秋吉台の環境と人々と生活の関係を感じ取ることができました。



<秋吉台ができたのは約3億年前>



<秋吉台の環境は
地域の人々が守ってきた>

【グループ活動「秋吉台いきものみつけ」】

事前に準備していた写真を提示し、「秋吉台いきものみつけ」として大正洞入口付近と大正洞内を班ごとに子ども達だけで30分間探しました。

<提示した写真 9枚>

- ・犬ヶ森ポノール（吸い込み穴）
- ・クルミの実
- ・オオキツネノカミソリ
- ・ハグロソウ
- ・ミヤマカタバミ
- ・コウモリ
- ・子育て観音（石柱）
- ・よろめき天井
- ・木の根っこ

再集合して見つけれられたかどうかを確認すると、見つけれなかったもので多かったのはミヤマカタバミと木の根っこでした。



<ミヤマカタバミ>
幅の広いハート型の葉が特徴

【大正洞入口付近の自然観察、大正洞探検】

「秋吉台いきものみつけ」の解説を含め、再度田原氏とともに同じコースで観察を行いました。

「クルミ」…河川敷など水気のある場所を好む。洞穴からの湿った空気によって生育。

「コウモリ」…独特の臭いがする。グワノ（コウモリの糞）は洞窟にすむ生物の貴重なえさになる。

集団で子育てをする。

「オオキツネノカミソリ・ミヤマカタバミ」

…標高の高い山地で見られる多年草。

鍾乳石…鍾乳石の成長速度は、炭酸カルシウムの含有量や気温などさまざまな要因に左右される。石筍と比べると速い。

気温の変化…洞穴効果により洞窟入口に近づくとどんどん気温が下がった。外気の影響を受けるが、年間通して洞窟内の気温は10℃前後になっている。

- ・最高気温 34℃（犬ヶ森ポノール前）
- ・洞内最低気温 14℃（地獄）

洞内のコケ…蛍光灯などあかりが設置された箇所にコケやシダが生育している。本来は光合成ができないため胞子が持ち込まれても洞内で植物が育つことはない。洞内緑化として問題になっている。



<洞穴効果体感中>



<よろめき天井発見>

【ふりかえり】

事前に配布していた「しおり」に観察したことの気づきなどを記入しました。

思い出しながら書いたり、わからないところを友達同士で教えあったりしながら、1日の活動をふりかえってもらいました。

また、活動以外の疑問についても、田原氏に個別で対応していただきました。

4. まとめ・感想

30人という募集人数に対して37人も応募がありましたが、バスの定員以内であったので全員に参加してもらいました。真夏の暑い時期での活動でしたが、怪我や熱中症にかかる子どももなく、無事に活動を終えることができました。

参加した子ども達には、虫など日頃から興味を持ったテーマがある子ども、自由研究として考えている子どももいて、積極的に取り組んでいました。

また、1日を通して秋吉台エコ・ミュージアムの田原氏に講師をお願いできたことで、活動全体に一貫性を持たせることができ、子どもからの質問や意見が出やすい雰囲気ことができました。学習内容としては、秋吉台のなりたちなど難しい内容を含んでいましたが、施設の展示物を見学しながら解説いただけたことで、あまり堅くなりすぎずに学習できたと思います。